

2020年度第3回理事会議事録

1. 日時：2020年12月5日（土） 13:33～15:50

2. 場所：テレビ会議（Zoom）

3. 出席者（テレビ会議による出席）：

理事：総数26名中

松丸喜一郎会長 田村恒彦副会長 褐田登喜造副会長兼専務理事

岸高清常務理事 溝部政司常務理事 永谷喜一郎常務理事

大野明敏常務理事 鍵山博常務理事 横山幸子常務理事

三木容子常務理事 平井宏治理事 佐橋朋木理事 源洋子理事

寺澤良悦理事 田中僚一郎理事 高橋信吾理事 田中辰美理事

田口亜希理事 松島愛理事 横沢聰理事 尾崎和郎理事

五十嵐治人理事

以上出席22名

監事：総数2名中 石崎和男 香西俊輔 以上出席2名

4. 議事録署名人：松丸会長、田村副会長、褐田副会長、石崎監事、香西監事

5. 褐田専務理事が13時40分に理事21名出席で成立するとの宣言をした。

平井理事が成立宣言後参加し、最終参加人数は22名となった。

6. 議長：代表理事 松丸喜一郎

藤井彌事務局長が点呼をとり、オンライン会議システムにより、出席者の音声が即時に他の出席者に伝わり、一堂に会するのと同様に適時的確な意見表明ができる状態となっていることが確認されて議案の審議に入った。

会長挨拶

コロナの重症者、死亡者が増えており、感染状況を踏まえた対応へのご理解をお願いしたい。理事各位には、会員の感染防止対策を徹底していただきたい。円滑な進行にご協力いただきたい。

<審議事項>

1、インテグリティ教育範囲の拡大及び認定コーチ資格負担軽減の方針

褐田専務理事より、審議事項表題の訂正があった。

訂正前「インテグリティ教育範囲の拡大及び認定コーチ資格経費軽減の方向性」、

訂正後「インテグリティ教育範囲の拡大及び認定コーチ資格負担軽減の方針」

松丸会長より、資料にもとづいて案が説明された。

ガバナンスコードで求められている教育対象の拡大に対応する措置である。

褐田専務理事より、かかる費用は認定コーチと公認審判の費用であわせるということで良いか、との質問があった。

松丸会長より、認定コーチ制度の費用負担について、原則的には公認審判員制度に近い形とし、詳細は財務部会と指導者育成部会で検討していく、との回答があった。議長が諮ったところ全員異議無く、インテグリティ教育範囲の拡大及び認定コーチ資格経費軽減の方針について資料1のとおり承認した。

2、東京 2020 オリンピック選手及び専任コーチ報奨金について（案）

田村選手強化委員長より、資料にもとづいて案が説明された。この変更は、実態にあわせるための変更である。

特に質疑は無く、議長が諮ったところ全員異議無く、東京 2020 オリンピック選手及び専任コーチ報奨金について（案）を資料2のとおり承認した。

3、第3回全日本ミックスチーム射撃競技選手権大会 G1 (AR・AP) 開催地について

溝部競技運営委員長より、資料にもとづいて案が説明された。

②の分散開催とし、茨城県射撃場を本部とする、として提案がなされた。

以下の意見があった。

- ・本部を茨城県とする事に賛成であり、細部としては競技運営委員会で検討すれば良い。
- ・マイトンがダメならば、SIUS の長瀬にて集合でやつたらどうか。G1, G2 を集合でやることに意義があるのではないか。

松丸会長より、集合が理想であることに異論はない。ただし、コロナの状況で集合が無理であれば中止ではなく、分散であっても開催することを第一義に考えるという話ではないのか、との発言があった。

溝部競技運営委員長より、長瀬は雪が降る時期なので、本部としては無理と考えた、との発言があった。

・分散開催賛成である。コロナがいつまで続くのか、一過性であれば試合ごとにかえていくが、長いことかかるだろう。コロナ後の試合のあり方を考える上では、新しい考え方として、常に頭に入れておく必要がある。テストケースの意味もあり、分散開催をやっていくべき。

・分散開催のチャンスである。どんどんやるべきである。

・大会グレードには拘らない。

議長が諮ったところ全員異議無く、第3回全日本ミックスチーム射撃競技選手権大会 G1 (AR・AP) 開催地について、分散開催することを決定した。開催地その他については競技運営委員会、中止については会長および執行部に一任することとした。

4、公認審判員の承認について

平井審判部会長より、資料にもとづいて案が説明された。

特に質疑は無く、議長が諮ったところ全員異議無く、公認審判員の承認について資料4のとおり承認した。

5、日本記録の公認

溝部競技運営委員長より、資料にもとづいて案が説明された。

議長が諮ったところ全員異議無く、日本記録の公認について別添資料1のとおり承認した。



<報告事項>

1、委員会報告：

1) 総務委員会

- ・日本から ASC 執行委員会への提案報告

松丸会長より、資料5にもとづいて報告がなされた。

- ・2020 年度半期決算報告

袴田専務理事より、資料6にもとづいて報告がなされた。

会員数については、補正予算の想定より多いが、前年より少ない。

電子標的の公認料については、各ブロック理事に来年度のブロック内情報を集めていただく予定。

選手強化、ジュニア育成については、コロナの影響で事業ができていない。

協会の収支の傾向としては、前半に収入があり、後半に支出がある。

今年度の年間見込みは、黒字の見通し。

棚卸しや固定資産などについては、半期決算による変更なし。

2) 興東電子製大会軌跡表示システムの購入準備報告

袴田専務理事より、次第の記載事項にもとづいて報告がなされた。現在、興東電子と打ち合わせをかねている。明確になり次第、審議事項として提案する。

2) 推薦委員会報告

・審査結果報告

大野推薦委員長より、資料7にもとづいて報告がなされた。

学連でも放銃報告が浸透している。特に AP は、次の推薦につながる。

Web での推薦委員会審議を進めていく。一枚でみられるスタイルにする。

松丸会長より：指導用 AP があまり上がってこない理由は何か。各都道府県への指導員資格取得に関するアンケートでは、取得するにあたり特に困難はないという回答だった。

袴田専務理事より：支障があったら、協会へ相談すること。警察庁が対応してくれる。

3) 国体委員会報告

・国体委員の変更

鍵山委員長より、資料8にもとづいて報告がなされた。

・三重国体 K カードおよび大会要項

鍵山委員長より、資料9にもとづいて報告がなされた。

・栃木リハーサル大会要項

鍵山委員長より、資料10にもとづいて報告がなされた。栃木国体から Mix チーム種目がはじまり、AP と BR で行われる。リハーサルについては、県を跨いで組んでも良い。

・佐賀正規視察について報告があった。詳細は 2 月理事会で報告する。

・3 者会議についての報告があった。50m 射座数の削減の話があった。継続審議であることを伝えた。各県には、要望書を提出いただき、個別に運用で対応するという説明をした。後催県は、射座数削減を強く希望しているので、競技運営委員会と連携して対応していきたい。

4) 2020 東京オリンピック準備運営本部報告

袴田専務理事より、次第の記載事項にもとづいて報告がなされた。詳細は2月理事会で報告する。

田村副会長からの、射撃場は予定通り3月出来るのかとの質問に対して、3月末出来上がるが、公安委員会許可は、4月1週か2週。4月26日から30日は競技が行われる日。NTOはその3日前、ITOは4月21日集合。PET前日の24日は、準備作業が必要。NTOは23日から宿泊。テストイベントはエアコン、照明を要望し続ける。との回答があった。

5) 選手強化委員会報告

- 2021年シンボルアスリートの推薦

田村委員長より、別添資料2にもとづいて報告がなされた。

6) ジュニア育成委員会報告

- 2020 東アジアユースエアガン大会の意義

松丸会長より、2020 東アジアユースエアガン大会の意義について、口頭にて報告がなされた。12月10日から12日までオンラインにて行われる。

参加国は、日本、韓国、シンガポール、中国の4カ国。

本部はジャパンスポーツオリンピックスクエア。

意義は、以下の通り。

- 日本初オンライン国際競技会。
 - 射撃を知らない方がみても面白いと思えるようにSCATTを用いる。
 - 高円宮妃殿下、山下JOC会長が視察にくる。協会として主催大会に皇室、JOC会長が視察に来ることは初のことであり、成功させたい。
- 永谷常務理事より、他のスポーツで皇族やJOC会長が視察にくることは、まずない。非常に盛り上がる大会となる。我々が思っている以上に、大会本部を妃殿下、JOC会長が視察することは大きい、との発言があった。

- 2020 東アジアユースエアガン大会派遣選手団について

三木ジュニア育成委員長より、資料11にもとづいて報告がなされた。

今回、選手の先生は、NTCに入っていただけない。

7) 競技運営委員会報告

- 2021年度事業計画日程主催競技会等計画案

佐橋企画部会長より、別添資料3にもとづいて報告がなされた。

競技会計画から、NT選考会、育成選考会、オリンピック選考会は抜き出した。

松丸会長より、IOCはオリンピック合同を考えており、ジェンダーフリーも出来る競技から実現されていく、との発言があった。

永谷常務理事より、オリンピック合同、ジェンダーフリーは、時代の要請。時代の流れにあって行かない競技は、はずされ、廃れていく。射撃は親和性が高い競技であり、アピールしていくべきである、との発言があった。

平井理事より、ジェンダーフリーの文章について、射撃競技男女の体力差が競技成績に対する影響が少ないので、という理由を書いた方が正しく理解してもらえるのではないか、

との提案があった。

佐橋企画部会長より、記述を更新する、との発言があった。

袴田専務理事より、会議日程について例年に倣って設定している旨、説明があった。

- 徳島射撃場変更

平井審判部会長より、資料13にもとづいて報告がなされた。

鍵山常務理事、袴田専務理事より、徳島県の本部公認審判員でかまわないので、実測し、記録して提出する必要がある、との指摘があった。

平井審判部会長より、実測し、記録して提出する、との発言があった。

8) 普及・生涯スポーツ委員会

認定コーチバッヂ作成について、永谷普及・生涯スポーツ委員長より、次第の記載事項にもとづいて報告がなされた。

2、会務報告：

- 第14期エリートアカデミー生の状況について

田村副会長より、第14期エリートアカデミー生の状況について口頭にて、10月の書面審議での承認では、全理事に迅速に対応していただいたことへのお礼及び、JOCに2名推薦したが、1名が第3次選考に残っているとの報告がなされた。

- ガバナンスコード予備調査チームとの打ち合わせ報告

藤井彌事務局長より、ガバナンスコード予備調査チームとの打ち合わせ報告について、口頭にて報告がなされた。11月30日に初めて打ち合わせがあり、専務理事、事務局長、芝田事務局員が出席した。予備調査チームとの打ち合わせは審査そのものではない。袴田専務理事より、指摘をうけた内容については精査と対応をすすめている。予備調査チームは、審査をサポートするチームである、との発言があった。

松丸会長より、大きな指摘はなかったとの発言があった。

その他

岸高常務理事より、別添資料は議事録を待たずして送ってほしいとの依頼があった。

15時50分に議長の松丸会長が閉会を宣言した。

2020年12月5日

議事録署名人

公益社団法人日本ライフル射撃協会

議長、代表理事（会長）松丸喜一郎

松丸喜一郎



代表理事

田村恒彦

田村恒彦



代表理事

袴田登喜造

袴田登喜造



監事

石崎和男

石崎和男



監事

香西俊輔

香西俊輔

